



庄内町みんなが主役のまちづくり交流会
まちづくりは人づくり、地域の元気づくりから

仙台高等専門学校 建築デザイン学科
准教授 小地沢将之 (こちざわ まさゆき)

目次

0. 自己紹介

1. 震災とまちづくり

- 悲惨のなかの希望
- 相馬市磯部地区の希望

2. 「庄内町みんなが主役のまちづくり基本条例」とは何か？

- 3つの大事なポイント

3. まちづくり基本条例を活かした近隣の事例

- 遊佐町におけるまちづくりセンターの建替え事業

まちづくりは人づくり、地域の元気づくりから

自己紹介

- アーバンネット (仙台市/1999~)
- トライショップ123 (仙台市/2001.11~12, etc.)
- 農村サポートセンター設置事業 (宮城県登米市/2004~2006)
- 東六地区個性ある地域づくり計画策定事業 (仙台市/2004~2006)
- 空き店舗を活用したサロンづくり (山形県酒田市/2010~2012)

- みんなで関わる
- みんなで意見の違いを知る
- みんなで考える
- みんなで情報を共有する

東日本大震災を振り返る

当事者である私たちは認識を改めなければならない！

復興における当事者意識のみならず日頃からの当事者意識が鍵である！

- * 想定外の災害は起こる！
- * 社会基盤の老朽化が進んでいる！
- * 私たちの生活のすべてへの対応を自治体に依存してよいのか？

『復興への提言～悲惨のなかの希望』 (東日本大震災復興構想会議/2011.6.25)

- * 復興構想7原則
- [原則2] 被災地の広域性・多様性を踏まえつつ、**地域・コミュニティ主体の復興**を基本とする。(後略)
- [原則7] **今を生きる私たち全てがこの大災害を自らのことと受け止め、国民全体の連帯と分かち合いによって復興を推進するものとする。**

当事者意識の醸成に失敗した例

酒田大火 (1976.10.29)

22.5ha焼失, 死者1名

◎ 国・山形県・酒田市の強固な連携により、2ヶ月間で復興都市計画をまとめ上げた

行政主導

阪神淡路大震災 (1995.1.17)

死者6,434名, 全壊104,906棟

◎ 行政と市民がそれぞれのフィールドで役割分担をしながら復興を遂げた

行政と市民の役割分担

酒田大火 (一時のライフスタイルに迎合した立派なハード整備)

住民参加による復興まちづくりの進め方

被災者の合意形成を図っていくためのモデル的なプロセスを設定

モデル的なプロセス	プロセスの解釈（小地沢）
協議の進め方について了解を得る	計画や事業の進め方についての合意形成
復興計画に掲げられた復興方針を説明する	方針づくりにおける参画
被災者とともに復興方針を確定する	方針の決定における参画
まちづくりに対する被災者の意見を把握する	事業フレームの検討における参画
被災者とともにまちづくりの基本方針を定める	事業フレームの決定における参画
住まいの再建に要する概算費用を提示する	当事者としての事業への関与条件の整理
住まいの再建方法を選択してもらう	
まちづくり計画案を作成して被災者と協議する	計画づくり（個別事業の統合作業）への参画
協議結果を反映してまちづくり計画案を修正する	
協議と修正を繰り返してまちづくり計画を完成する	計画づくりの決定における参画

- ★専門家の関与により住民参加に成功している地区はごくわずか。
- ★多くの地区では住民参加が実現していない。

『東日本大震災の被災地における復興まちづくりの進め方』（国土交通省／2012.6.7）より

地域課題の解決に市民総参加で取り組む時代の到来

●地方分権一括法（2000）

- ◎地方自治体の役割の拡大
= 住民自治の原則

●社会教育法（2008改正）

- ◎学校・家庭・地域住民等の連携や協力を促進
= 住民の役割は集落自治だけではない
(ましてやの生涯学習の受益者に甘んじてはならない)

*市町村ごとに「みんなが主役」になる方法の開発へ

- 二セコ町まちづくり基本条例（2001）を皮切りに

さまざまな動機を持った
みんなが主役のまちづくりの
実現を目指す体制づくりへ

32

地域課題の解決に市民総参加で取り組む時代の到来

*庄内町みんなが主役のまちづくり基本条例（2012.7.1施行）

- 町民の参画と協働推進検討協議会「チーム・まちスタ」での検討（2010.8～2012.3）

この条例はこうしてできました



この条例の原案は、幅広い立場や年齢層の町民の方たちで作った組織「チーム・まちスタ（庄内町町民の参画と協働推進検討協議会）」が、数多くの会議を重ねてまとめました。
庄内町みんなが主役のまちづくり基本条例には、町民の願いと希望がたくさん込められています。

33

[事例紹介] 山形県遊佐町まちづくりセンター整備事業

- ▼2007年「まちづくり基本条例」制定
⇒6地区（1955年合併前の旧6町村）の町民自治を担う組織としてまちづくり協議会を設立
- ▼2011年「まちづくりセンター条例」制定
⇒地区公民館を廃止、町民自治拠点としてのセンターに移行（地区協議会が委託管理）
- ▼国の交付金事業として2地区のまちづくりセンターの建替え作業が進行中
※2館とも防災機能を備え、うち1館は津波避難ビルを兼ねる
※住民ワークショップ、プロポーザル運営等の一切を小地沢研究室で担当
- （参考）国土交通省「社会資本整備総合交付金」（遊佐町／2012～2016年）
まちづくりセンター4館、子どもセンター、総合運動公園、津波避難誘導サイン等の整備事業（約21億円）の一切の調整に、小地沢がアドバイザーとして関与
- ▼第1回ワークショップの特徴
施設規模や配置を検討 →設計の前提条件を住民自ら策定する作業
- ▼第2回ワークショップの特徴
利用団体ごとの将来の利用ビジョンを検討 →新しい利用イメージを形成
- ▼合意形成プロセスの特徴
まちづくり協議会から住民に対する定期的な情報発信に加え、ワークショップ不参加者に向けての公開性を高めるため、地区の文化祭にあわせてワークショップの成果物を展示
- ◎住民による事業認知度 ※2012年11月末（事業本格始動から半年）時点
◆吹浦地区 58.3% ◆稲川地区 75.3%
⇒ モデル的なプロセスの丁寧な踏襲+綿密な情報公開 に成果あり
(参考) 福島市復興計画の認知度 ※2012年5月（原案公表から半年）時点 … 12.1%

[事例紹介] 山形県遊佐町まちづくりセンター整備事業

▼公募型プロポーザルの採用（遊佐町史上初の試み）

- コスト偏重の事業とならぬよう、設計事業者の経験や提案力を審査
○住民のニーズは「地区カルテ」として実施要項に添付 ○住民から審査委員を輩出
○2次審査は公開で実施 ⇒計画と決定への住民参加+高い公開性

▼第3回ワークショップの特徴

- 選定された設計事業者の提案をもとに、さらなる検討の繰り返し
→検討作業を通じて新しい施設像を理解

▼第4回ワークショップの特徴

- 将来の管理運営について検討
→行政依存の管理体制を脱し、自主管理しやすい設計に変更する提案

▼子どもたちは自分が暮らしている地区に帰属意識を持っているか？

Q. センター運営のボランティア活動に協力したいか？（遊佐町）

A. センターの大掃除	Y地区住民	9%	⇒	中学生	%
小学生の放課後の見守り		18%			%
行事・講座などの企画・運営		14%			%

今日の目標

*実践事例発表

【知る】

- ◎ 個々人の得意な力をまちづくりに活かしている人たちを知る

*情報交換会

【知る】

- ◎ すでに活動している人たちの悩みを知る

【関わる】

- ◎ その悩みの解決のために何ができるのか一緒に考える

【活動する】

- ◎ それぞれの次の一歩を踏み出す

絆強める踊りの輪

相馬の磯部地区
震災後初の盆踊り



震災後初開催となった磯部地区の盆踊り大会で踊りの輪を広げる住民

東日本大震災の津波
相馬市磯部地区の盆踊り大会は十六日、磯部

で大きな被害を受けた地区住民が避難生活を
を送る樹木仮設住宅で

中で開かれた。

犠牲者の追悼行事があり、僧侶による読経の後、参加者全員で黙とうをささげた。

磯部地区の大橋富貴
区長会長(む)は「かつ

踊りに先立ち、震災
犠牲者の追悼行事があ
り、僧侶による読経の
後、参加者全員で黙と
うをささげた。

域全体の盆踊り大会と
して復活開催した。
従来と同様、成人を
目前に控えた若者で構
成した「盆会」が運営
に当たり、同地区出身
の星亜美さん(29)・仙
台高専五年1が実行委
員長を務めた。

開いたことはあった
が、震災後初めて、地
域全体の盆踊り大会と

などもにぎやかに繰り
広げられた。
踊りに先立ち、震災
犠牲者の追悼行事があ
り、僧侶による読経の
後、参加者全員で黙と
うをささげた。

先などからも参加し
やぐらを囲んで踊りの
輪を広げた。記念品が
当たる抽選、ゲスト民
謡歌手による演奏披露
などもにぎやかに繰り
広げられた。

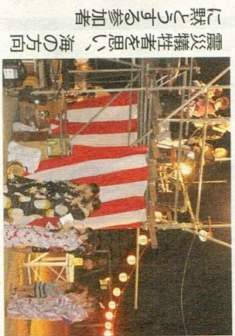
3年ぶりの開催とお
うて地元住民らが避難
先などからも参加し
やぐらを囲んで踊りの
輪を広げた。記念品が
当たる抽選、ゲスト民
謡歌手による演奏披露
などもにぎやかに繰り
広げられた。

開いたことはあった
が、震災後初めて、地
域全体の盆踊り大会と

開いたことにはあった
が、震災後初めて、地
域全体の盆踊り大会と
して復活開催した。

交流する場として継続
期待した。
16日、磯部中で開かれ、地
域住民らが楽しむとき
を過ごした。
盆踊りは、同地区夏の恒
例行事。成人式を迎える若
者実行委員会をつくり開
催していたが、東日本大震
災の津波被害で開催が中止
されていた。

今年、若者が頑張るこ
とで地域に元気を取り戻え
ると、星亜美さん(29)を
実行委員長に7月から準備
スタート。後輩にも協力を
呼び掛け、準備を進めてき
た。



震災犠牲者を思い、海の方
向に黙とうする参加者

3年ぶり盆踊り
相馬、磯部地区
相馬市沿岸部の磯部地区
で3年ぶりとなる盆踊りは
16日、磯部中で開かれ、地
域住民らが楽しむとき
を過ごした。

盆踊りは、同地区夏の恒
例行事。成人式を迎える若
者実行委員会をつくり開
催していたが、東日本大震
災の津波被害で開催が中止
されていた。

今年、若者が頑張るこ
とで地域に元気を取り戻え
ると、星亜美さん(29)を
実行委員長に7月から準備
スタート。後輩にも協力を
呼び掛け、準備を進めてき
た。

会場では、ビンゴやクイ
ズ、じゃんけん大会のほか
震災犠牲者を弔って黙とう
がさげられた。仮設住宅
や借り上げ住宅に避難して
いる人だちも集まり、やぐ
らを囲んで踊りの輪が広が
った。

星委員長は「開催すべ
か迷ったこともあったが、
多くの人だちが集まってく
れて良かった。来年以降も
後輩たちには引き継いでほ
しい」と話した。

福島民報 2013年8月18日

福島民友 2013年8月18日